

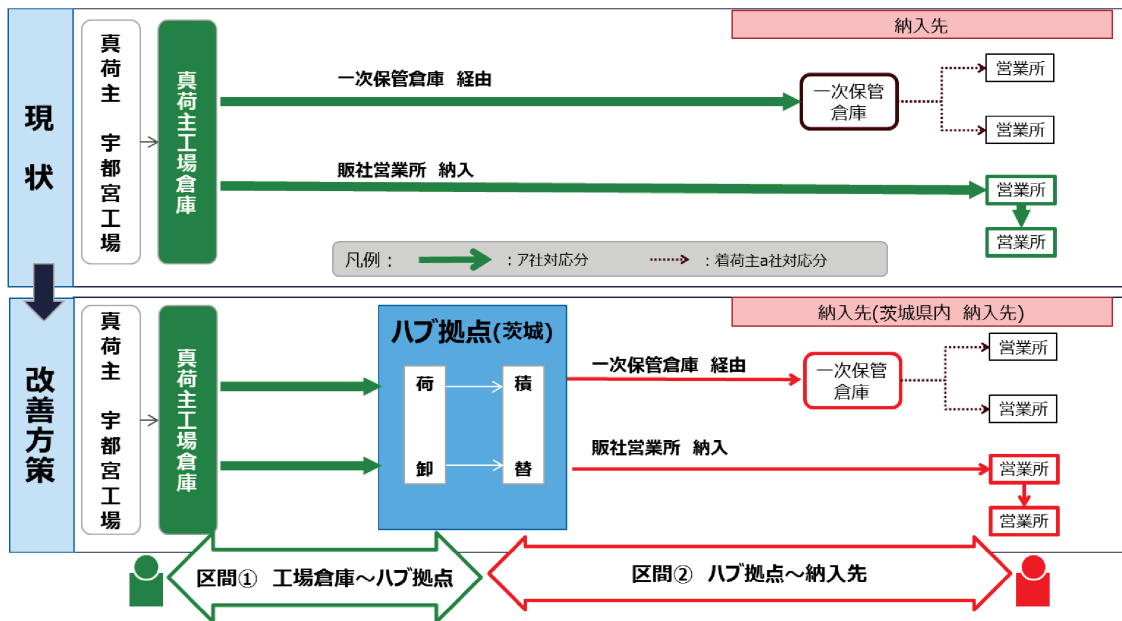
ハブ拠点導入で納入先を集約し運転時間削減 栃木県

1. 実施者の概要

- 荷主企業：
 - 発荷主A: 製造メーカーの物流子会社
 - 着荷主a: 製造メーカーの販社 関東甲信地区での販売・整備
- 運送事業者: 運送事業者A
 - 着荷主aの配送を担う
- 荷種
 - 精密機器(自走式)

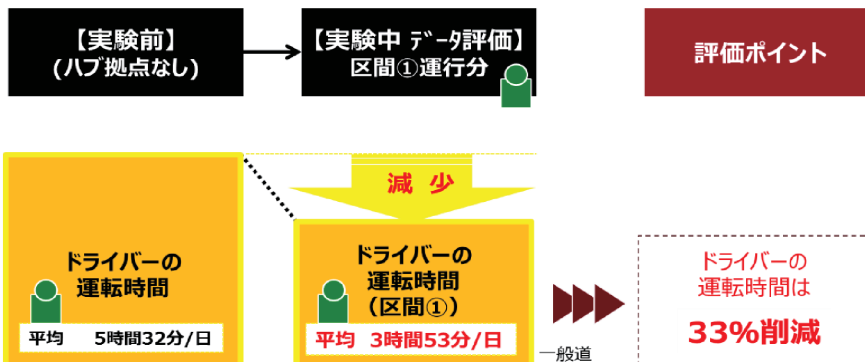
2. 事業概要

新規にハブ拠点を設けることで、納入先を集約し、「運転時間」を短縮



※対象エリア外の都道府県は、従来通り。
 ※着荷主a社で担当の輸送領域 (.....) は、変更なし。

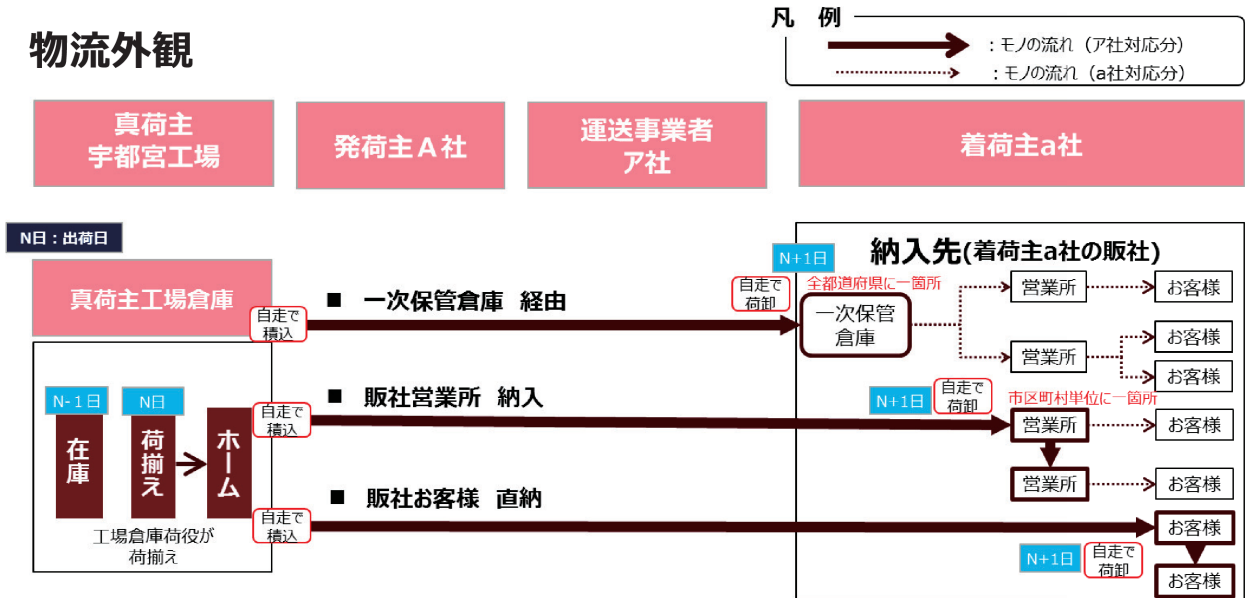
効果



3. 課題

- ① 対象集団の物流の特徴は、着荷主a社の納入先数が多いことにある。
- ② そのため、販売エリア内に点在する納入先を組合せて配車する際、納入先数が増えると「運転時間」の増加、及び「拘束時間」の長時間化につながっていた。

物流外観



4. 事業内容

- ① 納品先を集約するため、配送エリア内に新たにハブ拠点を設置し、ドライバーの運行区間を見直した。
- ② これまで1名で運行していた区間を複数ドライバーで分担した
 区間① 工場倉庫⇒ハブ拠点 区間② ハブ拠点⇒納入先

5. 結果

- ① ドライバーの「運転時間」は、33%削減
 実験前運転時間:5時間32分 → 実験中運転時間:3時間53分

6. 荷主企業のメリット

- ① 今回の実証実験結果(定数的データ)を成功事例として、自社の輸送ネットワークの見直し検討に活かせる。
- ② 「運転時間」の削減は、ドライバーの身体的負荷低減につながる。結果として、ドライバー確保につながれば、安定的な輸送サービスが提供できる。

7. 結果に結びついたポイント

- ① 荷主企業と運送事業者双方とも長時間労働に対し危機感を有していたことから、輸送ネットワーク見直しにもつながる施策を実施できた。